

# 第1章 市の概要

平成17年4月1日、石巻地域の1市6町は、新たな石巻市として生まれ変わりました。石巻市は、東経141°、北緯38°に位置し、東西約35キロメートル、南北約40キロメートル、面積554.58平方キロメートルの市域の中に、北上川が新旧二つの河口から追波湾と石巻湾に注ぐとともに、その流域には平野が広がり、丘陵が点在しています。海岸は、長面浦・万石浦の入り江を伴いながら、太平洋側・牡鹿半島のリアス式海岸、石巻湾側の砂浜と変化を見せ、沖合の金華山、網地島、田代島といった大小の島々では、タブノキなどの林に覆われています。

また、北上高地から牡鹿半島へと続く北上山系の山々は、モミ・イヌブナ・ブナの自然林が原生林の面影を留めています。

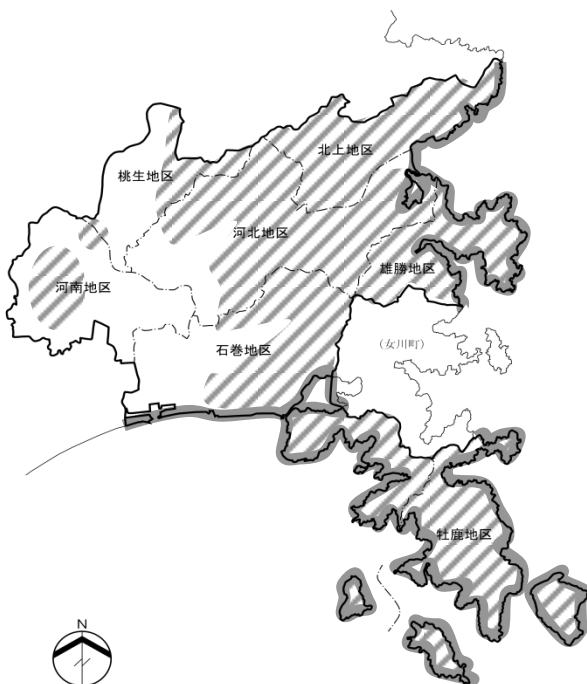
本市を象徴する花木として、「クロマツ」と「ツツジ」をそれぞれ平成17年10月17日に制定しております。クロマツは、大地にしっかりと根をおろし、太陽に向かって伸びていく姿から、本市の力強い発展を、ツツジは、明るく咲いている姿が市民生活にうらおいを与えるとともに、暑さや寒さに強いことから伸びゆく本市を、それぞれ象徴しております。

《図1-1 市の木「クロマツ」(右図) 市の花「ツツジ」(左図)》



写真：石巻市

《図1-2 石巻市の地形と基本データ》



凡例	
	海岸・島嶼地域
	山地・丘陵地域
	平野地域

人口：146,991人  
 (H29.3月末/住民基本台帳)  
 世帯数：61,006戸(同)  
 面積：554.58km<sup>2</sup>

資料：国土交通省ホームページ「H28年全国都道府県市区町村別面積調」を基に環境課作成

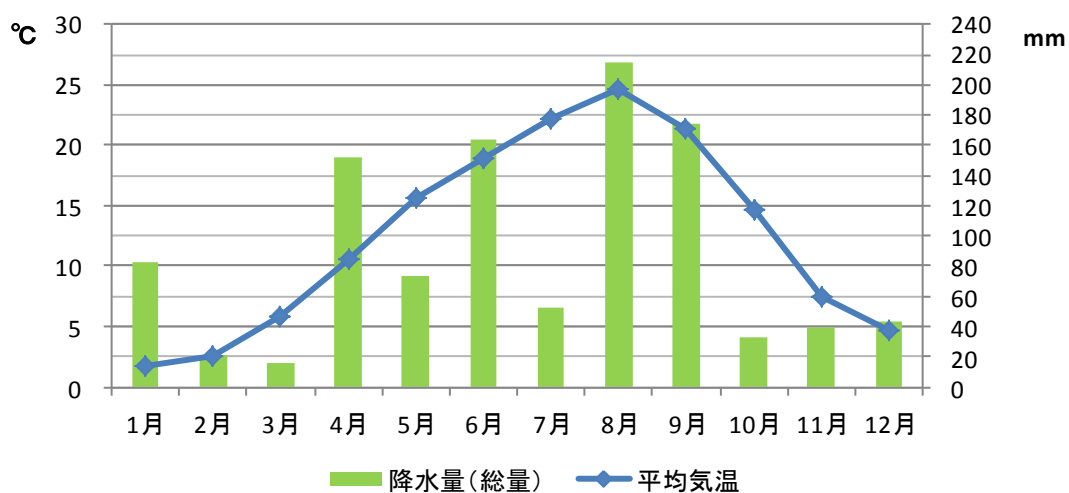
気候は、春から夏にかけて吹く冷たく湿った東よりの風「やませ」により、特に梅雨明け頃には曇りや雨の日が多く肌寒い日が続きます。また、平成28年の降水量については台風9号と台風10号、台風13号から変わった低気圧と前線による大雨の影響により8月と9月の降水量が非常に多くなっています。

産業面を見ると、太平洋沿岸部では古くから漁業や水産加工業が盛んで、石巻工業港ではパルプ・紙・紙加工品製造や木材・木製品製造及び鉄鋼業等の工場が立地しています。

また、内陸部では、稲作を中心として農業・畜産・園芸等が営まれています。

東日本大震災の被害により、石巻港、石巻漁港とも大きな被害を受けましたが、石巻港では、石巻港企業連絡協議会に参加する52社すべての企業が事業を再開しました。岸壁や埠頭等の港湾施設もほぼ全ての復旧工事が完成し、平成28年取扱貨物数量も約335万トン（平成22年比83%）と回復しつつありますが、復旧関連貨物（砂・砂利等）を除く取扱貨物数量は298万トン（平成22年比74%）の取扱量となっており震災前と同等までに回復していないのが現状です（参照：宮城県開発株式会社）。

《図1-3 平成28年石巻市の月ごとの降水量と平均気温》



資料：気象庁公表資料を基に環境課作成

《図1-4 平成28年の石巻市の気候に関する主要データ》

年間平均気温	12.5°C
年間最高気温	33.7°C
年間最低気温	-4.7°C
年間降水量	1064.0mm
日最大降水量	67.5mm

資料：気象庁公表資料を基に環境課作成